



立野

練馬区立立野小学校

平成28年

1月号

<http://www.tateno-e.nerima-ky.ed.jp>

年頭に思うこと

校長 池上 育志

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

先月の土曜授業日、どの学年の子供たちも声を合わせて「よいしょ！よいしょ！」と、友達がお餅をつくときに気持ちのよい声をかけていました。

本校では恒例となっている餅つき大会ですが、私にとっては17年ぶりでもあり、また、児童全員がお餅をつけるというのは初めてのことでした。学年が上がるにつれお餅をつく力強さも当然、増していきませんが、どの学年の子供たちも皆一生懸命にうれしそうにっていました。我が国の伝統行事の一つである餅つきを一人一人の子供たちが毎年体験できるということは大変有り難いことです。私は恥ずかしながら初めてついたのは教職に就いてからのことでした。今、本校の子供たちが小学生時代から毎年お餅がつけることは、町会、PTAの皆様のご尽力のお陰です。深く感謝いたします。

さて、この年末年始、例年通り様々なスポーツが行われています。私はこのところ箱根駅伝に興味があり見ております。2年連続で優勝した大学の活躍は目を見張るものがありますが、優勝校の監督の言動にも関心が向きます。今年は、初日が終わったときの新聞記事に監督が、「どの大学も一年間頑張った。気持ちに差はない。いかにピークを合わせるか」ということを語られたと載っておりました。その大学の選手を見ていて昨年から驚くのは、走り終えた選手が倒れ込まないこと。笑顔でまだまだ余力を残している様子。それでいて区間賞であったり、区間上位であったりする結果。その違いは何であろうかと、昨年は本当に驚かされました。今年も常に上位の記録を各區間で残しての完全優勝でした。なるほど、ピークをうまく合わせているのだなぁと納得します。そして、過去の大学では聞かれなかったような作戦名が昨 years が「ワクワク大作戦」、今年が「ハッピー大作戦」。箱根駅伝前に全日本大学駅伝で2位に敗れた結果の今回です。とにかく感心しきりです。優勝校のキャプテンが「本校の選手は、走れない選手は走れないことを悔しがらず、今、自分がチームのために何ができるかを一生懸命探して、そのことを行う」と、語っているとのこと。もしかするとピークをうまく合わせた選手でも走ることがかなわないのかもしれないかもしれません。それでも、悔しがらない。まさにチーム一丸そのものと思います。

では、私事に考えると、学校運営の上で、他校と競うということはあまり考えません。自分の学校の子供たち一人一人をいかに伸ばしていくか、実態をよく見て何に力を入れていくかということを考えます。子供たち一人一人をみれば、それぞれに伸ばすべきことがあります。子供たちの日常は、専科と担任が直接担当しておりますので任せますが、私は教員の相談等に乗りバックアップに回っています。チームとして学校運営を進めていきたいと考えます。

地域、PTAの方々の思いが本校恒例の餅つき大会等になっていると思います。新しく始めたことも、その「よさ」を認識し、続いていけば伝統になっていくと考えます。本校の一人一人がよく頑張った持久走大会も間違いなくその一つと思います。新しい3学期制が始まる次年度に向けて、今年、さらに「チーム立野」として学校がより充実していくように進めていきたいと思ひます。本年も本校へのご理解ご協力の程どうぞよろしくお願ひ申し上げます。